

# 地域福祉計画アンケート調査結果のまとめ

## 福祉について

- 「福祉」に関心がある人は約 85%と非常に多くなっています。【→問 1】男女別にみると漠然とした関心は女性の方が高いものの、非常に関心が高い人は意外にも男性の方が多いという結果が出ています。  
⇒全般的に福祉への関心は高くなっていますが、現実には積極的に福祉活動に関わっている人は固定化している傾向がうかがわれるため、新たな参加を促進する工夫が必要です。特に、男性の関心の高さに注目し、行動へと結びつけることがポイントと考えられます。
- 「福祉」のイメージは「介護」、「高齢者」、「助け合い」の順に高く、高齢者福祉のイメージが強いことがうかがえます。【→問 2】一方、「弱者」「不安」「不自由」「お金・措置」といった従来の固定概念やマイナスイメージの回答も一定程度みられます。  
⇒今の時代に応じた新しい福祉の考え方を啓発していく必要があります。

## 世帯・居住状況

- 世帯は「夫婦のみ世帯」が約 4 割ともっとも多く、「核家族世帯」が約 3 割、「ひとり暮らし高齢者」が約 1 割を占めています。【→問 4, 問 6】居住年数では、「20 年以上」と長年住んでいる人が 7 割以上と多い一方で、「住み始めて 5 年未満」の人も 1 割近くいます。【→問 7】
- これからも住み続けたい人は約 7 割と多く、【→問 1 0】その理由は、「自分の土地や家があるから」「長年住み慣れた地域だから」といった地域への愛着が強いことがわかります。また、「家族や友人がいるから」「自然等が気に入っているから」という人も多くなっています。【→問 1 1 - 1】一方、住み続けたくない理由は、「買い物や交通の便がよくないから」「福祉・医療等のサービスが整っていないから」が群を抜いて多くなっており、次いで「地域のしきたり・慣習・文化になじめないから」となっています。【→問 1 1 - 2】

## 地域の助け合い

- 相談相手は「家族」「親族」「友人・知人」が非常に多く、次いで「隣近所」の順です。【→問12】
- 地域のまとまりや助け合いについて、できていると思う人は約半数です。【→問13(1)(2)】
- 地域活動に参加・協力している人は約7割に上っていますが、このうち頻繁にしている人は17%にとどまります。あまりしていない、まったくしていない人も約3割います。【→問13(3)】
- 近所づきあいについては、「立ち話をする程度」がもっとも多く、「困ったときに助け合う」「訪問し合う」ような深いつき合いは3割程度にとどまっています。【→問14】また年齢別にみると、若い年齢は近所づきあいが浅い傾向にあります。

## 地域の課題

- 地域の課題については、「子どもの数が少ない」「交通が不便」「医療」「障害者・高齢者が暮らしやすい環境づくり」の順に多くなっています。【→問15】課題解決の手法については、「住民同士で協力して解決したい」と「行政に解決してもらえよう要求していきたい」の2つの考え方が拮抗しています。【→問16】

## 障害者・高齢者・子育て支援

- 障害者福祉については、差別や偏見があると感じる人は約35%で、【→問17】障害のある人と交流する機会がある人は半数弱にとどまっています。【→問19】
- 子育てについては、地域の子どもと「出会ったらあいさつをする」人は8割近くと多いが、声をかけ、注意したり、ほめたりする人はその半分程度です。【→問21】地域に必要なことは、「子育て中の親などが集まって相談や情報交換ができる場」「同年代の子ども同士が集まって遊べる場」「世代間交流ができる場」などが多くなっています。【→問22】
- 高齢者福祉については、高齢者のひとり暮らしや高齢夫婦のみ世帯は近所に多くいますが、日ごろ見守りなどの支援をしている人は、そのうち約3割と少ない状況です。【→問23】【→問23-1】

## 災害時の対応

- 災害時に必要と思う支援は、「防災行政無線で知らせる」「市職員や消防団員の呼びかけ」「避難場所の情報提供」などが多くなっています。【→問24】
- 支援が必要な人を速やかに救う方法で、障害の有無、緊急連絡先などを登録し、地域の人に必要に応じて公開する仕組みについては、過半数の人が賛同できると回答しています。【→問25】

## ボランティア・地域活動

- ボランティア・地域活動の内容では、清掃活動、自治会など地域組織の活動が多くなっています。【→問26】参加については、時間ができたら、興味のあることなら参加したいという回答が上位です。【→問27】形態としては、住民主体で自由に活動を行い、行政は支援する形が望ましいという考えが多くなっています。【→問27-2】  
⇒短時間でもでき、しかも興味に沿った内容であることが、ボランティア活動を活発化させるポイントと考えられます。
- 地域の見守り活動やちょっとした手伝い、清掃、パソコンが得意、子どもたちに昔の遊びや昔話ができる、子どもを預かれる、料理が作れる、スポーツやダンスができる、大工・工作が得意、英語ができるなど、地域にはさまざまな特技を持ち、地域のために活かしたいという気持ちのある人が大勢います。【→問30】  
⇒このような潜在的なマンパワーと支援ニーズを上手くつなぎ、コーディネートしていく必要があります。
- 団塊の世代が今後、地域参加するためには、市全体のイベントの開催、参加しやすい雰囲気づくり、誘い合うことが大切という回答が多く、他にもまずは近所づきあいから始める、行政の情報提供・旗振り、子どもとの関わり・支援、グループを作るなどの多数のアイデアが寄せられました。【→問31】
- 総合的にみても、江田島市は福祉の充実した安心・安全なまちになることが強く求められています。【→問29ほか】

個々の設問ごとの集計データは、「アンケート調査集計結果」を参照してください。  
なお、年齢別・男女別の集計データについては、掲載を割愛しています。